

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

～2014 年度事業・決算報告 2015 年度事業計画・予算～



ESDリレープレシジョンポジウム『食・農・環境を通じた持続可能性を考える』

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

本誌を通じておかやま環境ネットワークについて一層のご理解を賜り、身近に感じていただければ幸いです。今後も変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

※活動は皆様のご支援に支えられています。ご入会・ご寄附等のご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**
Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

2014年度の事業報告

はじめに

- ①. 事業実施にあたっては、参加を増やし裾野を広げることを目指し企画をすすめた結果、過去最多の参加があり、他団体や行政等との協働、連携もすすみました。
- ②. 行政庁へ、公益財団法人となって初めて事業報告、決算報告を行い、役員変更登記を行いました。
- ③. 事務局一人体制での、事業企画のあり方、各作業・業務の見直しをすすめました。

1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

①. 助成事業

1) 助成活動報告会

5月31日(土)に、岡山県下で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動を紹介してさらなる活性化、相互のネットワーク形成をめざし開催し、57名が参加されました。2013年度助成を受けた全8団体(千年の森づくりグループ、あかいわ美土里の和、真庭ハンザキ調査団、おかやまエコマインドネットワーク、旭川源流大学実行委員会、岡山野生生物調査会、里海づくり研究会議、おかやまコブ倉敷エリア)からの報告と、おかやま環境ネットワーク役員からの感想、参加者間の質疑応答と情報交換をすすめました。



●助成活動報告会

2) 助成部会

助成活動報告会のあり方、助成募集要項について検討をすすめ、2015年度助成応募の審査を行いました。

3) 助成実績

- ・2014年度は10団体に125.68万円助成しました。
- ・これまで16年累計で、179団体に1,814.98万円を助成しました。

●助成実績一覧 ※金額：万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
13	8	102.3
14	10	125.68
合計	179	1,814.98

●2014年度助成事業・企画一覧

	団体名	企画名
1	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
2	千年の森づくりグループ	美咲町限界地区竹の粉碎・堆肥化推進
3	おかやまエコマインドネットワーク	持続可能な社会の扉を開く映画会
4	旭川源流大学実行委員会	鏡野町富の村の自然環境調査
5	岡山野生生物調査会	ワイルドライフウォッチング
6	中学高校環境研究会	旭川まるごと探検隊 新庄川キャンプ
7	共存の森ネットワーク	アモ場再生活動を通じた人材育成
8	あかいわエコフェ	第16回あかいわエコフェ(環境企画展)
9	里海づくり研究会議	殻殻イノコト創生技術の開発
10	おかやまコブ 備北エリア	倉敷科学センター見学

②. ホタル団体交流会・第12回ホタルフォーラム

1) ホタル団体交流会

年3回開催(4月12日(土):15名参加、7月12日(土):17名参加、9月13日(土):12名参加)し、ホタルの保全活動をととした環境保全活動の交流をすすめ、来年度のホタル団体交流会やホタルフォーラムのあり方について検討をすすめました。

2) ホタルフォーラム

12月6日(土)に第12回ホタルフォーラムを、倉敷イオンホールにて、倉敷市、酒津のホタルを親しむ会、みらい公園にホタルを憩う会、蔵おこし湧々、生活協同組合おかやまコープ倉敷エリアとの共催で開催し、111名が参加されました。冒頭、倉敷市長・伊東香織氏、並びに青山勲代表理事より挨拶がありました。その後、岡山県立大学名誉教授・伊藤國彦氏の基調講演『昆虫と人間』に続き、酒津のホタルを親しむ会長・武内立爾氏の報告『倉敷市街地におけるホタル復活への課題と提案、年間活動報告』と、倉敷市環境政策課自然保護係・三宅康裕氏の報告『倉敷市生物多様性地域戦略について』、青山勲代表理事をコーディネーターに質疑応答、最後に酒津のホタルを親しむ会のホタルの詩の合唱をしました。その他、会場内で故・梶田博司氏(元川崎医療福祉大学教授・元おかやま環境ネットワーク理事)所有の写真・各種資料展示や、安藤豊氏のホタルクラフト作品展示、酒津のホタルを親しむ会所有のホタル・カワニナ・機器等の展示があり、午後からは、酒津公園を視察しました。



●第12回ホタルフォーラム会場



第12回ホタルフォーラム展示

③. 自然環境の研究・交流

1) 自然環境部会

おかやま環境シンポジウム企画検討や、シンポジウム報告者の取り組みの聞き取り調査、参加メンバーの取り組み交流、DVD鑑賞を通じた学習等をすすめました。

2) 第六回おかやま環境シンポジウム

1月31日(土)に「干潟の自然環境」をテーマに、干潟の役割や機能、その重要性、保全等について考えるきっかけとなることをめざし、自然環境部会の企画・運営のもと開催し、47名が参加されました。里海づくり研究会議事務局長・田中丈裕氏の基調報告『干潟の役割と機能』の後、児島湾研究会・森千恵氏の報告『乙子湿地の活動から見て来た児島湾干潟の400年～岡山市立太伯小学校5年生の2014年の授業より～』、岡山理科大学理学部准教授・齋藤達昭氏の報告『高島干潟における調査活動の取り組みとその意義』、井原市立高校教諭・坂本明弘氏の報告『高梁川河口干潟と笠岡湾干潟での取り組み』の後、白井浩子理事のコーディネーターで、参加者との意見交換を行いました。



●第六回おかやま環境シンポジウム会場



●第六回おかやま環境シンポジウム
意見交換

3) 旭川流域部会

体験プログラム企画検討や、参加メンバーの取り組み、調査研究活動の交流等をすすめ、「旭川かいぼり調査」資料を作成しました。

④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- 1) 「おかやま環境ネットワークニュース」を年4回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
- 2) 月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
- 3) メールニュースの登録者数は積極的に各事業の参加者を中心に登録を呼び掛けた結果、昨年度末の1,180名から1,345名に増加し、各事業への参加申込は、メールニュースの返信によるものが多数を占めるようになりました。
- 4) 活動紹介パンフレットや事業・決算報告書をいろいろな機会に配布し、活動紹介や会員獲得を図りました。

⑤. 環境家計簿の普及

- 1) 環境家計簿委員会：環境家計簿モニター実績をまとめ、「環境家計簿レポート」や「環境家計簿カレンダー」の発行、モニター用各種帳票類の検討をすすめました。
- 2) 2013年のモニター実績報告をまとめた「環境家計簿レポート」を7月に岡山市と協働で発行しました。報告は396世帯からあり、その内2013年と2012年の2年間分の全データが揃ったのは208世帯、CO₂排出量は前年比7.6%削減、総量で74,704-CO₂kgの削減につながりました。
- 3) 2014年のモニター登録数は、岡山市の太陽光補助事業との協働などにより、前年度825世帯から1,179世帯に登録が増えました。
- 4) 暮らしの見直しにつなげる啓発ツールとして、11月初旬に「環境家計簿カレンダー2015」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに送付しました。
- 5) 「環境家計簿活動」に対し、政府がすすめる「住宅エコポイント事業」より23件・21,276円(累計132件、248,525円)の寄附がありました。

2. 啓発事業

①. 市民のための環境講座

- ・市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に開催しました。8回シリーズで、岡山つながる・ひろがるESD事業として、また、岡山県生涯学習大学指定のもと開催し、過去最多の228名が参加されました。
- ・講師とテーマ
 - 1) 6月21日(土) NPO法人CASA専務理事・早川光俊氏『加速する地球温暖化と人類の未来～IPCC第5次報告書の警告～』 24名参加
 - 2) 9月6日(土) 吉備国際大学社会科学部教授・井勝久喜氏『環境問題を捉える視点～ワークショップ～』 20名参加



●ネットワークニュースNo.77



●環境家計簿カレンダー2015



●環境家計簿レポート

- 3) 10月4日(土) NPO 法人里海づくり研究会議理事・田中丈裕氏『岡山県における水産業の現状と課題～瀬戸内海はきれいになったの？豊かになったの？』 22名参加
- 4) 12月13日(土) NPO 法人フードバンク岡山理事・三田善雄氏『こんなに捨てられている！ 食べられる食品』 33名参加
- 5) 1月10日(土) 岡山地方気象台・黒岩康夫氏『岡山県の気候変動について』 34名参加
- 6) 1月24日(土) 岡山理科大学理学部特任教授・野上祐作氏『PM2.5 について～国境を越える汚染物質酸性雨、光化学スモッグ、黄砂～』 34名参加
- 7) 2月14日(土) 元岡山大学准教授・白井浩子氏『公正を実現しつつ豊かで持続可能な社会へ～全体(限度)をつかむことの大事さ～』 28名参加
- 8) 2月28日(土) 岡山大学名誉教授・青山勳氏『放射能は人の健康や環境にどのような影響を及ぼすのか～原子力発電と放射能問題～』 33名参加

②. 体験プログラム

・次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

・第1回：6月6日(金)『アマモ再生教室・定植後の観察』
アマモの役割や自然環境について学び、海への関心を深め、海洋資源の保全につなげることを目的に、笠岡市神島・見崎公会堂と近隣海岸にて生活協同組合おかやまコープ井笠エリアと共催で開催し、23名が参加されました。

当日は、2014年1月に定植したアマモの苗の成長を漁船に乗り観察しました。その後、公会堂で神島見崎里浜づくり代表・森中憲治氏のお話を聴き、アマモの役割や自然環境について学びました。

・第2回：8月8日(金)『アマモ再生教室・種子採集作業』
36名が参加されました。

海岸にて種子を入れておいた袋から大まかにごみ等を洗浄し、公民館に帰って種子とごみを竹製ピンセットにて分別作業をし、約46,000粒が採取できました。

・第3回：10月17日(金)『アマモ再生教室・育苗キット製作体験』

23名が参加され、アマモの種の植え付け作業として、ポットへの砂・種子の投入から植付と、一連の育苗キットの製作を体験しました。

・第4回：1月23日(金)『アマモ再生教室・苗定植体験』
33名が参加され、10月に作成したポット苗を持ち寄り、早朝5時30分より海岸への定植を体験しました。



●市民のための環境講座
井勝 久喜 氏



●第1回『アマモ再生教室・定植後の観察』



●第2回『アマモ再生教室・種子採集作業』



●第3回『アマモ再生教室・育苗キット製作体験』

- 第5回：8月9日(土)『高島干潟いきもの観察会』
54名の参加予定で準備していましたが、台風11号接近に伴い、残念ながら中止しました。

- 第6回：7月12日(土)『海ホタル夜間観察会』
自然にふれる体験を通じ、いきものいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、自然の役割や海の現状など、くらしと自然環境の関わりを理解し、普段のくらしのあり方を見直すことにつなげるきっかけをつくることを目的に、倉敷市大浜海岸にて開催し、76名が参加されました。



●第6回『海ホタル観察会』

関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、現地の自然環境やいきものについての解説の後、5班に分かれ、岡山野生生物調査会、関西高校、岡山理科大学附属高校の指導のもと、するめなどのえさを入れた瓶のしかけを海に沈めて採集しました。しかけの瓶にはたくさんの海ホタルが入っており、刺激を与えると、青い光が一気に広がり、神秘的な夜の海の不思議を体験しました。

- 第7回：8月23日(土)『旭川まるごと探検隊 龍宮岩・毛無山自然観察会』

「毛無山セラピーロード」、「女滝」、「源流の碑・野土路川」「道の駅メルヘンの里新庄」「鬼の穴・龍宮岩」をめぐるながら、岡山理科大学理学部准教授・山口一裕氏、國六株式会社取締役・黒田眞路氏、関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、驚きの自然環境が残る旭川源流で、専門家の楽しい解説を聞きながら自然観察等を行い、51名が参加されました。



●第7回『旭川まるごと探検隊』

- 第8回：10月26日(日)『宇甘川いきもの調査会』

岡山市北区御津・宇甘川流域にて、いきもの調査を、岡山理科大学理学部・斉藤達昭氏、岡山淡水魚研究会・中田秋穂氏、関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、旭川源流大学実行委員会、宇甘川生き物調査プロジェクト世話人会と共催で開催し、56名が参加されました。



●第8回『宇甘川いきもの調査会』

当日は、専門家の指導のもと、多くの淡水魚や水生昆虫を採集し、その解説を聴き、それらのいきものたちと触れ合うことで、自然環境の豊かさを実感し、環境保全の大切さについて学びました。

また、昼食は、地元の皆様に用意いただいた「いのししカレー」を堪能しました。

- 第9回：11月8日(土)『旭川かいぼり調査』

岡山市北区・竹枝小学校横の旭川河川敷にて、いきもの調査を、竹枝学区ふるさと活性化協議会、他の多くの団体と共催で開催し、32名が参加されました(全参加者：347名)。



●第9回『旭川かいぼり調査』

当日は、旭川本流河川敷と中洲の間を一時的にせき止めて、生き物調査を行い、午後からは採集したいきもの解説を聴き、その後全員で、川底の石を返し、

川を耕し、ゴミ拾いをしました。アカザを含む 24 種類の淡水魚が確認されました。

また、「旭川かいぼり調査」パンフレットを作成し、参加者をはじめ、ESD 世界会議や地元の学校にも配布しました。

- 第 10 回：11 月 26 日(水)『リサイクルを学び隊』
生活協同組合おかやまコープ井笠エリアと共催で開催し、尾道市コープ CS ネットエコセンターにて、エコセンター、物流施設、太陽光パネルを見学し、24 名が参加しました。
- 第 11 回：10 月 31 日(金)『実り豊かな秋をまなび隊』
岡山県立森林公園にて、森林インストラクター・長谷部勝己氏指導のもと、生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアと共催で開催し、44 名が参加されました。
当日は、バスの中で事前学習やクイズを行った後、インストラクターの解説を聴きながらトレッキングを行い、植物や木々の観察を通し、植物の多様性や森林の役割等について学習しました。

4. 他団体や行政などとの関係

- ① ESDリレープレシンポジウム（岡山つながる・ひろがる ESD 事業）『食・農・環境を通じた持続可能性を考える』

10 月 21 日(火)岡山コンベンションセンター・イベントホールにて、農林水産物の生産現場に関する関心や理解を深め、我々の食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることなどに関する理解を深めることを目的に開催し、176 名の参加がありました。

最初に学校法人服部学園理事長・服部幸應氏の食糧問題全般に関する基調講演『地球規模で考える食糧問題』と、次に岡山県内の様々な立場に関わる方々から話題提供として、農林水産省中国四国農政局次長・長谷川博章氏『農山漁村交流及び食育等に係る農林水産省の取り組み』、生活協同組合おかやまコープ常務理事・三宅晴久氏『おかやまコープの地産地消、食と農を守る取り組み』、岡山県立興陽高等学校農業科教諭・伏見拓也氏と同校生徒の加藤孝則さん・古好徳浩さん『環境に優しい稲作～アヒル・アイガモ農法・木村式自然農法の取り組み』の報告を受け、最後に就実学園理事長・千葉喬三氏をコーディネーターに、パネルディスカッションとして、会場からの質問に各パネルから回答がありました。



●第 10 回『リサイクルを学び隊』



●第 11 回『実り豊かな秋をまなび隊』



●ESDリレープレシンポジウム
服部 幸應 氏



●ESDリレープレシンポジウム
パネルディスカッション

②. ESD関連広報

- ・岡山駅地下通路にて、当財団の事業紹介パネルの展示を7月末～10月末まで行いました。
- ・11月7日～8日の世界会議会場の岡山コンベンションセンターロビーにて、事業紹介ブースを出展しました。

③. 「水環境フォーラム in 岡山」

第9回は、7月5日(土)、(社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で、『岡山城お濠へのヒシ植栽に伴う水環境の変化』をテーマに開催し、27名が参加されました。

当日は、岡山理科大学・野上祐作氏『お濠の水環境改善に関する経緯』、岡山理科大学・北岡豪一氏『井戸水の供給を止めても変わらないお濠の水位』、岡山理科大学・斎藤達昭氏『ヒシの植栽に伴う生物相の変化』、岡山理科大学・山口一裕氏『ヒシの植栽に伴う水質の変化』の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

第10回は、2月28日(土)『飲料水の安全・安心について考える』をテーマに開催し、21名が参加されました。

当日は、国立保健医療科学院・小坂浩司氏『水道水源における化学物質汚染の発生源探索』、岡山市水道局・藤田良祝氏『岡山市水道局水安全計画と河川の現況』、国土交通省岡山河川事務所・櫃野忠克氏『岡山三川の水質事故及び水質汚濁防止連絡協議会の活動』の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

④. 海洋教育セミナー「里海づくり推進に向けて」

3月23日(月)、NPO法人里海づくり研究会議、認定NPO法人共存の森ネットワーク、生活協同組合おかやまコープと共催で開催し、56名が参加されました。

当日は、認定NPO法人共存の森ネットワーク事務局長・吉野奈保子氏『“聞き書き”と海洋教育の取り組み』、備前市立日生中学校・藤田孝志氏と同校3年生アマモ場再生グループ『漁師さんと取り組むアマモ場保全活動』、生活協同組合おかやまコープ井笠エリア・小山恵子氏『笠岡におけるアマモ場保全～その活動内容と足跡～』、NPO法人里海づくり研究会議・田中丈裕氏『日生の里海づくりの道程～地域の歴史や食文化から考える～』の報告がありました。



●岡山コンベンションセンターロビー
事業紹介ブース



●第9回「水環境フォーラム in 岡山」
野上 祐作 氏



●第10回「水環境フォーラム in 岡山」
藤田 良祝 氏



海洋教育セミナー
備前市立日生中学校の皆さん

⑤.行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山ESD推進協議会運営委員会」へ参加し、役割を発揮しました。
- ・岡山市との共催、岡山県生涯学習大学指定のもと「市民のための環境講座」を開催しました。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。
- ・岡山市と共催で「ESD リレーシンポジウム」を開催しました。
- ・倉敷市と共催で「ホタルフォーラム」を開催し、伊東香織倉敷市長にご挨拶いただきました。

⑥.寄附等

- ・環境家計簿関連事業に、政府がすすめる「住宅エコポイント事業」より24件・21,460円（累計133件・248,525円）のご寄附をいただきました。
- ・全日信販株式会社より23,454円のご寄附をいただきました。

6. 法人管理・会計等

①. 公益財団法人定期報告と役員変更登記

公益財団法人として、最初の定期報告を行政に行い、一部役員の変更登記をしました。

②. 会員の状況

	団体	個人	企業等	合計
2014年度末	49	111	44	204
2013年度末	58	109	46	213

●2014年度入会の状況

	団体	個人	企業等	合計
入会	1	20	0	21

③. 財政

- ・経常収益計は、予算比105.9%、前年比98.2%と、ほぼ予定通りとなりました。
- ・経常費用計は、予算比87.0%、前年比128.2%となりました。
予算を下回っているのは、体験プログラムが台風の影響により中止になったことや、事業実施にあたり他の団体等との協働により、事業費が見込みより減額できたことなどによるものです。
- ・年度予算は、2013年度の正味財産増加相当分の118万円の赤字予算としていましたが、上記の結果、正味財産は▲112,194円となりました。



「旭川かいぼり調査」資料



「ホタルフォーラム」資料



「環境シンポジウム」資料

公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

平成27(2015)年3月31日現在

理事

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	秋山 秀行	(株)大町代表取締役社長
3	井勝 久喜	吉備国際大学教授
4	清水 善朗	弁護士
5	白井 浩子	日本科学者会議岡山支部会員
6	塩飽 敏史	公益財団法人水島地域環境再生財団理事・研究員
7	上甲 啓一	生活協同組合おかやまコープ執行役員(組織本部長)
8	千葉 喬三	学校法人就実学園理事長
9	梅崎 一夫	生活協同組合おかやまコープ職員
10	野上 祐作	岡山理科大学特任教授
11	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
12	三村 健	サンヨー印刷(株)代表取締役
13	山本 章造	岡山淡水魚研究会

以上、理事13名 (50音順)

代表理事:青山 勳、業務執行理事:上甲 啓一、梅崎 一夫

評議員

	氏名	略歴等
1	伊藤 國彦	岡山県立大学名誉教授
2	大山 健二	岡山大学生生活協同組合専務理事
3	北川 文夫	岡山理科大学教授
4	小橋 賢之	(株)建美装社代表取締役
5	近藤 紗智子	岡山の緑と水と空気を守る連絡会会員
6	田中 敦子	生活協同組合おかやまコープ有識者理事
7	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
8	日野 進一郎	日野環境デザイン研究所代表
9	檜山 伸吾	児島湖流域エコウェブ理事
10	平田 まき子	加計学園水質管理室課長
11	平林 明成	倉敷医療生活協同組合職員
12	福留 正治	岡山環境カウンセラー協会顧問
13	藤田 賢治	(株)フジタ地質代表取締役
14	山崎 晶弘	岡山医療生活協同組合組織部長

以上、評議員14名 (50音順)

監事

	氏名	略歴等
1	赤坂 光俊	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麺株式会社代表取締役

以上、監事2名 (50音順)

顧問

	氏名	略歴等
1	奥田 節夫	京都大学名誉教授
2	河原 長美	岡山大学名誉教授
3	佐藤 國康	川崎医科大学名誉教授

以上、顧問3名 (50音順)